

芹ヶ谷公園“芸術の杜“パークミュージアム”整備計画説明会 主な発言

日時	2022年5月29日(日) 15:00~17:30
場所	町田市立 国際版画美術館 講堂
町田市 出席者	文化振興課 8名 国際版画美術館 2名 公園緑地課 4名
参加者	66名

参加者	このプロジェクトの予算規模はいくらか。
町田市	(仮称)国際工芸美術館の整備工事費については、約28億5千万円、アート・出会いの広場については約3億6千万円、(仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟整備については、約8億円、公園整備については約20億円である。
参加者	受注企業団体等は決まっていないか。
町田市	これからである。
参加者	なぜこの状況で事業を進めるのか。昨年度の市の財政状況、支出、収入状況はいくらか。 施設整備の話ばかりで、どのように市民に還元されるかの話がない。
町田市	市立博物館のあり方をこれまで検討するなかで、市立博物館の美術品は国際版画美術館やモニュメントも点在する芹ヶ谷公園にて、国際版画美術館と一緒に観てもらうことが親和性が高いということを検討してきた。 中心市街地と一体となって商業の街に芸術的の要素を盛り込むことで、より街の魅力を高めていくという狙いや、駅から近く多くの方に来園していただけるこの場所が望ましいということで建設を計画した。 市の事業として、市民の生活を守るところには予算を確保し、また将来を見据えた時に、より価値を高めるための事業として、芹ヶ谷公園全体も含めて整備を進めることで、みなさんに喜んでいただける魅力的なまちづくりをしていきたいという想いでこの事業を進めている。
参加者	経済が縮小しているなかで、建設する必要が全く無い。 版画美術館の平日の来館者はどれくらいあるか。
町田市	版画美術館の企画展にもよるが、100名~200名の来館がある。 平日のみのデータというのはないが、2019年度は年間162,035名の来館者がいた。
参加者	平日はほとんど版画美術館の来館者はいないと思われる。また、博物館の来館者数は年間何人か。

	<p>将来のランニングコストの予測は立てているのか。</p>
町田市	<p>版画美術館の入館者数は平日100人程度である。</p> <p>企画展の内容にもよるが、会期中2万人の観覧者がある場合もある。展覧会だけで申し上げると、2019年度には年間110,000人を超えるほどの観覧者があった。コロナ禍で減少している現状があるが、2021年度については93,000人の来館があった。</p> <p>工芸美術館のランニングコストは、人件費を含まず概算で、年間3,700万円程度を想定している。現在の版画美術館のランニングコストは、年間人件費含めて約3億4,000万円と記憶している。収入は、約1割の3,400万円ほどである。</p>
参加者	<p>町田発のアートカルチャーの発信とは具体的に何を狙っているのか。工房・アート体験棟については、ターゲットは誰なのか。</p> <p>美術大学との連携を考えているのか。</p>
町田市	<p>町田市で活動しているプレイヤーの方々の発表の場、表現の場としてこの場を使ってほしいという思いから、町田発という言葉を使っている。</p> <p>工房・アート体験棟については、現在の版画工房利用者が利用していただくことに加えて、ガラスや陶芸等の体験、子どもにも積極的に利用していただけるように考えている。</p> <p>ガラスや陶芸等の体験については、初めての方でもできる「体験」をイメージしている。そこでできない専門的なことは近隣の大学と連携したいと考えている。大学との連携ということでは、多摩美術大学、女子美術大学、東京造形大学、和光大学、桜美林大学、玉川大学、など、近隣には多くの美術専門や専攻科目のある大学が存在している。今以上に連携していけるのではないかと考えている。</p>
参加者	<p>必ずしも自然はそのままにしておくのではなく、適切に手入れするのが望ましいと考えている。現状芹ヶ谷公園の森は鬱蒼としており、手入れが行き届いていないと感じている。公園のメンテナンスにはお金をかけないのか。</p> <p>工芸美術館は斜面に造られるということで、湧水やエレベーター棟を整備する池の部分の環境への悪影響はあるか。</p>
町田市	<p>芹ヶ谷公園再整備基本計画策定にあたって、できた当初から年数が経ち、樹林地の更新ができておらず、樹木が鬱蒼として小田急線側はその先何があるかわからないなどという声はいただいていた。今回の再整備は公園の年数が経ったことに対する再整備の面も持っている。</p> <p>樹木の更新については、2017～2019年にかけて小田急線側の樹木の伐採・剪定を行った。美術エリアについても市街地の中の緑にふさわしい林、見通しの良い形にしようと考えており、こちらについても予算計上をしている。斜面地という点に関しては、ボーリング調査をしっかりと行い、整備を考えている。</p>

参加者	市立博物館が閉館したことによる市民のデメリットは何か。
町田市	<p>博物館閉館後いただいている意見としては、ガラス、陶磁器に触れる機会が減ってしまったということはいただいている。また、現在博物館の収蔵品の他館への貸出を行っているが、より身近で見れるように。という意見がある。</p> <p>昨年栃木や岐阜、神奈川の美術館や五島美術館などで博物館の収蔵品を用いて巡回展をしていただいたことがある。巡回先の美術館から、博物館の収蔵品を借りたいとっていただき、そちらの美術館に来館し観たいという方がいるという点で、期待感がもたれている。</p>
参加者	工事車両の動線について道が狭いがどのように考えているのか。大型トラックは交差できない。周りの住宅の渋滞についてどのように考えているのか。以前に工事車両の影響で、渋滞したことがある。
町田市	工事車両については、施工する業者が決まったら詳細に検討し、説明させていただくが、工芸美術館については、原町田側からの出入りを想定している。できるだけご迷惑をおかけしないようにするにはどうしたらいいか、今後工事説明会を開催し、その際にご意見をいただき考えていきたい。
参加者	5月26日の説明では、工芸美術館については、事業を進めるとお聞きしている。それは、議会の付帯決議に反するのではないか。
町田市	実施設計については、スケジュールを示しており、それに基づいて進めていきたいと回答している。現段階では、こちらに説明している内容は議会へも説明しており、いただいた意見を今後公表し、意見を伺いながら進めていきたいと考えている。
参加者	<p>財政的に豊かでない町田市で、なぜコロナ禍でやるのか。</p> <p>市は自然豊かな谷戸の地形を認めている。そこに工芸美術館を建設することは、は矛盾している。他の場所を考えるべきである。</p> <p>版画美術館の工房機能を美術館から切り離す理由として、体験という言葉を用いているが、版画工房でやっているのは体験ではない。今のままで機能として足りている。</p>
町田市	<p>工芸美術館を建設することが矛盾しないかという点では、工芸美術館の規模感から、芹ヶ谷公園の魅力が損なわれるとは考えていない。多くの方に公園に来ていただきたいという立場からは1本でも木を切るべきではないという考えは持ち合わせていない。</p> <p>小田急線側については、湧水も多く、特に緑という点で気をつけないといけないと考えている。市街地で見られなかったホテルや生き物が住んでいる区域もあり、そちらの方を開発するのではなく、版画美術館との相乗効果が得られる所、公園全体を見渡した中で最適な場所として判断した。</p> <p>今後も特徴ある美術館として存続するチャンスとして今回の計画を考えている。美術エリアとして全体を考えており、工房を切り離す考えは無い。ガ</p>

	<p>ラスや陶磁、版画様々な方が同じ場所で活動することで、相乗効果を生み出したいということを考えている。</p>
参加者	<p>工芸美術館を建てることは谷戸の地形を損なう。芹ヶ谷公園の中に建てるかどうかから検討すべきだ。なぜ芹ヶ谷公園の中に限定するのか。</p>
町田市	<p>博物館の見直しを進める中で、工芸美術館の基本計画策定の際、街の魅力を高めるという視点、多くの方に楽しんでいただくという点、版画美術館のある芹ヶ谷公園に整備をするのが望ましいという検討結果に至った。</p> <p>芹ヶ谷公園内でどの場所が良いかということも比較検討した中で、都営住宅跡地、町田荘跡地と比較したなかで、街を意識した際、中心市街地や文学館通りからの動線、ルートを考えて際、みなさんが楽しんでいただける場所として、版画美術館に隣接する場所が相応しいという検討結果に至った。</p>
参加者	<p>版画工房で制作されている方は、体験というレベルではなく、かなり専門的な制作である。それをガラス工芸と一緒にしてもしょうがない。エリアで一体というのであればなぜ工芸美術館と版画美術館を繋げなければならないのか。</p>
町田市	<p>現在の版画美術館について不都合無いという話をお聞きしてありがたい一方で、課題もたくさんあると認識している。大きく時代が変化している中で、新しい時代に見合った活動をし、注目も浴びていかなければならない。</p> <p>工房・アート体験棟の言葉の意味は、「工房」という名称は、これまでの機能をそのまま残して、本格的な版画を制作する方も今できることはそのままできるようにするという意味がある。「アート体験」という名称については、子どもから大人まで、創作に興味を持っていただく方を増やしていきたい、新たな裾野を広げたいという意味が込められている。</p>
参加者	<p>工房は10日間の一般開放と聞いていたが、一般の人に体験して欲しいのであれば、残りの20日間で行えばよい。</p>
町田市	<p>まちなかとのつながりを意識して、工芸美術館を見た方がそのまま版画美術館も見ることができる一体的な美術館を作っていこうという発想の中で、今の設計がある。</p> <p>また、このプロジェクトの考え方として機能を分類して、再配置するという考え方がある。創作体験のできる場所として、工房・アート体験棟をつくり、そちらに配置するという計画である。このエリア全体が美術館のエリアとして計画している。</p>
参加者	<p>アート・出会いの広場は工房・アート体験棟に整備すれば良い。</p>
町田市	<p>アート・出会いの広場は、公園に来園された方がアートに出会える機会を創出するという意味がある。そこで出会えるアートというのは、両美術館の企画展示に関連するアートという意味合いもある。公園で遊んでいる方たちにも裾野を広げてより多くの方に気軽に入ってきて、美術館と公園に来た方をつなぐそういう空間を整備したい。</p>

参加者	今ある施設を有効に使えばいいの。一体化する必要はない。
参加者	市立博物館の企画が地味だなと思っていた。行きたいと思う企画であれば本町田という地の利でも人は来た。今も建物が残っているが、それは今後どうなるのか。
町田市	市立博物館については、現在施設の老朽化と収蔵庫がひっ迫している現状である。美術品を適切な形で保管が困難になりつつある。これまで展示に興味を引かれない方へも、魅力ある展示を心掛けていく。
参加者	市立博物館のデザインは、遺跡公園と連続した里山を生かした形のデザインである。それを今後活用する方法も考える必要があるのではないか。遺跡公園と博物館と版画美術館を結ぶ回遊性を作った方がいい。
参加者	このプロジェクトにお金を使うのではなく、医療や他のものに使ってほしい。今の時期なぜ急ぐのか。勇気ある中断とか中止を含めて考えてほしい。市長など意思決定をする人が説明会に来るべきである。
参加者	<p>今年の3月に公表された公共施設再編構想があるが、それに則ってやっているのか。相違があると思っている。</p> <p>工芸美術館を斜面地に建てる計画では2016年度比較平米単価3割増しである。他に自然地形の樹木を伐採する。版画美術館は世界的価値があるのかかわらず、改造が伴う。既存の施設の有効活用ではない。</p> <p>このプロジェクトは市が独断でこの位置を決め設計をしている。文化ゾーンネットワークの要望の中に、建物の位置変更を要望していたはずである。位置の変更は協議の対象にはならなかった</p>
町田市	<p>公共施設再編構想に記載は、意識して進めている。対話というところで、デザインブックという形でお示ししているものは、近隣の町内会など様々な方にお話をさせていただきながら作成している。</p> <p>文化ゾーンネットワークとの話し合いの中では、工芸美術館の位置については、ご理解を得て進めている。予定スケジュールの通り進めたいが、皆様のご理解を得ながら事業を行いたい。</p>
参加者	以前、別のシンポジウムに参加して、大宇根氏、中林氏の話聞いた。次回は設計者に来てほしい。その方がこの計画素晴らしさを自分の言葉で語れると思う。
町田市	そのシンポジウムは市の主催しているものではないため、詳細は把握していない。設計者の同席については、この説明会は市の事業として、市から直接説明をみなさんに行いたいという思いがあり開催している。
参加者	付帯決議の答えが返ってきていない。根本のところで、問題がある。「今回の国際工芸美術館に関わる基本設計委託料と実施計画委託料が当初のスケジュールで予定していた関係上という理由により、同議会での計上となっている。施設設備に係る予算規模も収支計画も必然的に不明確な状態である。このような状態で基本設計を終え、議会審議を経ずに実施計画の判断は極めて異例

	<p>な状況である。」これが7号議案に対する付帯決議じゃないのか。 見切り発車にならないようにしてほしい。</p>
町田市	<p>こちらが、付帯決議として認識している内容と異なっているので、後ほど確認させていただきたい。</p>
参加者	<p>説明会は3回参加した。町田市民の工房利用者は大変少なく、10名いるかないかである。その利用者集まって工房を守る会を立ち上げ、「芹ヶ谷公園をより良くする市民の会」と一緒に活動している。</p> <p>町田市民は全員という用語があるがみんな工房の移転に反対である。都内を跨いで利用する方が多く、その利用者の方が人数が多い。</p>